

被布を着たりしてゐた。

◇
チャリ物が専門だから自作が多い。元治元年に三世長門が死んだ時にも『朝嵐冥途の飛脚』と題して長門の冥途物語といふやうなものを上演して喝采を博した（北の新地の芝居十月興行）また北國で尾上多見藏を助けた話といふのや、自分が武士に變装した喜劇物なともある。

◇
文化二年に生れて明治十四年十月二十二日、八十二歳で歿する時、卒中で、グウ／＼と大駢をかいてそのまゝ死んでしまつたといふいかにもチャリ語りの終焉らしい最期だつたといふことだ。

◇
京都の五條阪の産れで、大阪では大寶寺町中の町に住んでゐた。

チャリ淨瑠璃のこと

語つた人、作つた人

チャリ淨瑠璃の起源だといふ説によると、元文元年三月四日初日で豊竹座に上演された、並木宗輔作『和田合戦女舞鶴』の四段目の口で、豊竹河内太夫が、鶴ヶ岡別當阿奢梨が手負の眞似して、追手を欺くといふ條がある、そこを極めて滑稽的におもしろく語り活かしたので大好評をとつた。由來——阿奢梨場と呼ぶべきを、阿を略して『シヤリ場』やがて『チャリ場』に轉訛したといふのだが……如何だか。

◇
近松の戯曲には、近松の友人で、作者と道化役者を兼ねてゐた金子吉左衛門をモデルにしたやうな、道化役、所謂チャリ役が澤山に

彌太夫の弟にあたる人に、素人チャリの上手として知られてゐた堀江の『彌々子』がある。その妹のお傳といふのが又女チャリ語りとして異彩を放つたもので、彌太夫作の『猫戀風雅妾宅』の猫争ひが得意で、これを語ると近所の猫が皆集まつて來て鳴いたといふ、世人稱して猫傳といふ名物女があつた。

チャリ語りの素人として、古今に絶した名物男、を一人紹介する。誰れあらうそれは、安永から文政へかけて狂畫で名高い耳鳥齋、松屋平三郎のことである。酒造家から骨董家になつた此人は、奇矯な畫風で、角力や役者の姿を寫し出してゐるが、先天的にユーモアに富んだ性格だつたと見えて、素人淨瑠璃では松平と號してチャリ専門で評判が高い。『音曲鼻けぬき』は彼の著で、畫、文、淨瑠璃の才が渾然として融和されてゐる。

耳鳥齋の畫の天才ぶりを評して、古澗和尚、鳥羽僧正から學んだもの、或は平賀源内の歳時滅法戒の序文に書いた通り『虚無』から來たもの、いろ／＼理窟がましく説かれてゐるが、狂畫の才があつて、チャリ淨瑠璃を語る彼れが、人形芝居に登る諸種の人形の動きや、形に直接感化を受けぬ筈はなく、彼の作畫のお手本が、このあたりから生れて出たのではあるまいかと云ふ私の憶説も、まんざら虚無でもないと思ふ。



耳鳥齋素人淨瑠璃の畫

淨瑠璃三業仲間規則

夫れ今學校を創立して幼児を導き婦女に教ふるものは人智を進ましむる也公園を開設して花樹を植え香草に培ふものは人心を樂しましむる也此盛擧たるや二つながら歐米各國の法に則る彼の孜孜汲々たる學務の勞を醫するに此愉々快々たる公園を設く衛生の法至れりさいふべし